

2011. 3. 11 の東日本大震災時とその後小職の行動と会社の復興経緯

氏名	米澤 雅之
卒年	昭和 50 年卒

2010年4月から赴任した東北ドック鉄工(株)で3年前にいわれる想定外の経験をしました。小職は、当日の3月11日(金)には高松にいましたが、高松で東日本大震災を知り、50時間後の3月13日(日)の夜には1,200km程離れた会社に戻れました。親会社のJFEエンジニアリング(株)の支援は絶大で、小職が塩竈の会社に着いた日には、横浜から10tトラック一杯分の支援物資が届きました。このお陰で、弊社のメンバーは生活物資の調達に奔走することなく、復興に集中でき、4月7日(木)の巨大余震によるライフラインの再切断にひるむことなく、弊社の変電所が津波で全水没してからほぼ1ヶ月後の4月15日(金)に全社への通電、4月21日(木)に復興後第一船の修理船の入渠をすることができました。災害の対応には公助・共助・自助がありますが、主に共助・自助を中心に東日本大震災後の小職の行動を日記風にまとめてみました。

□3月11日(金)

当日、愛媛県八幡浜から高松に向かってレンタカーで移動中でした。3月6日(日)に呉を皮切りに、客先の挨拶回りで四国・中国地方をレンタカーで回っていました。14:46 地震(M8.8 後でM9に修正)発生をレンタカー内のラジオで知りました。夕方、高松で四国運輸局宮村局長(昭和46年入学で同期で同郷)と面会、局長室のTVで地震・津浪の内容を知りました。この時、小職の無事は宮村さんが同期の皆さんに伝えてくれました。

後になってわかりましたが、塩竈は松島と七が浜と沖防波堤に守られて到達した津波の高さは2~3m程度でした。ドック中の修理船は流出したものの、当日船舶事業部の決死隊の覚悟で弊社の押船で本船に乗り込み投錨したために港外への流出は食い止められた。また地震発生から津波到達まで一時間以上あったため弊社及び協会の従業員も全員高台に避難して無事でした。



写真説明：当日の16:00頃

左) 弊社の船主監督・乗組員用宿泊施設の「北浜クラブ」から見た海側海岸線が盛り上がっている

右) 事務所前で自動車は浮かんで流されている



写真説明：

当日の16:30頃津波による高波で海水が扉船を超え1号ドックに入り入渠中の近海まき網漁船が浮上し、扉船が開いて流れ出るところ。出渠の前々日だったので検査終了後船底の海水弁は復旧してあった。

□3月12日(土)

高松から岡山にレンタカーで移動し、一旦、岡山から東京の新幹線を予約し、当日お邪魔する予定の岡山日生の船主殿にお土産を持参し、昼岡山発東京着の「のぞみ」に乗車、品川で下車、間引き運転中の東海道線で横浜に向かいました。当日、京浜東北線・根岸線は桜木町止まりのため横浜から根岸の自宅へタクシーで移動し、根岸の自宅に置いてあったハイブリッドの自家用車にガソリンスタンドでガソリンを(30Lしか売ってもらえなかったけど)満タンにし、ホームセンターで灯油タンク・飲料水・除菌ウェットティッシュ・

携帯充電器・折りたたみ自転車・バーベキューセット（木炭等）救援物資等を購入、再度GSで灯油 20Lを4缶購入し、更に、中古ショップで石油ストーブ・白灯油ランプ等を購入し自宅に戻りました。

一方親会社のJFEエンジの支援は絶大で、特に社長の命令で支援物資を10TON車2台、3TON車1台に託し3月12日（土）の夜19:00には東北の子会社3社に向け横浜を出発させていました。この3台のトラックは小職が弊社に来る前に所属していたJFE環境（株）の車でドライバーも小職が統括運行管理者を仰せつかった時の部下でした。仙台に向かう経路を尋ねたところ新潟経由ではなく4号線経由で向かうとの事でしたので、小職もこの経路で翌朝向かうことにしました。



写真説明：震災当日船舶事業部メンバーが決死隊覚悟で弊社の押船で本船に乗り込み投錨したために港外への流出は食い止めた近海まき網漁船に係留索を取り付けた。

□3月13日(日)

04:00に起床、朝食後、05:00に根岸を出発、06:00に門前仲町で出張中同行していた部下と千葉で働いている彼の愛娘を乗せ、首都高に乗ったものの東北道手前で高速は降ろされ、国道4号線で宮城県に向かいました。福島では土砂崩れ（地盤のすべり）で国道が塞がれたために更に迂回させられ、400kmの経路が12時間ほど掛かり、やっと17:00に仙台高砂のJFEエンジの倉庫に到着し、JFEエンジの支援物資を運搬してきたJFE環境（株）で元部下3名のドライバーと会い、更に自ら運転してこの倉庫と弊社の道路を確認したところ、大型トラックでの通行は無理なので3Tトラックでピストン運搬することを決定し、会社の北浜クラブに19:00到着し、同日当クラブに宿泊した。

□3月14日(月)

06:00起床、支援物資を仙台から20km程度の距離の会社に3TON車で運搬するものの、ガソリンスタンドに行列する車で渋滞していて、2時間程掛かり会社に到着直後、再度余震による津波警報のため避難した。



写真説明：当日の昼頃やっと到着した支援物資の配給を待つ弊社・協力会の従業員

□3月15日(火)

JFEエンジからの支援物資を社員に配布した。その後、初めて小職の塩竈での住まいである塩竈市役所そばのマンションに戻り、点検した。家財は色々倒れ移動していたが、マンションが岩盤の上に建設されているせいか破損は比較的少なかった。長期出張を控え排水したはずの風呂の水が残っており、生活用水（トイレの排水）としては確保されていた。会社からマンションへの移動は3月12日（土）に横浜で購入した折り畳み自転車で行いました。

□3月16日(水)

JFEエンジより支援者到着。自宅マンションに震災後1週間でやっと電気が点灯しました。

□3月18日(金)

自宅マンションに通水。 やっとトイレの水洗が使えるし、食器が洗えました。

□3月20日(日)

会社に置き放しの自家用車で移動。マンションに始めて宿泊しました。

□3月23日(月)

500KVAの発電機が到着、弊社の一番能力の大きい1号クレーン(60T)に接続し旋回を開始できた。



写真説明：中京地区で手配できた500KVAの発電機と電線・軽油が到着した

総合事務所・北浜クラブ通電、自宅マンションに宿泊した。

□3月24日(火) 本事務所・北浜クラブ通水開始



写真説明：津波で1号ドックから出てしまった近海まき網漁船を弊社C岸壁に接岸

□3月25日(金)

船舶事務所通水、1号クレーン走行
自宅マンションに宿泊

□3月27日(日)

スーパーで初めて買物、北浜クラブで震災の2週間後初入浴

□3月28日(月) 震災時沈没した弊社押舟「千賀丸」陸揚げ



写真説明：

左) 沈没した押船の陸揚げ

右) 社長の昼礼

□4月1日(金)宮城海上保安部より夜間を除き塩竈港入出港許可が出た。

□4月5日(火) 2号ドック扉復旧の上 2号ドック排水



写真説明：
左) 2号ドック扉閉鎖
右) 2号ドック排水

震災後第1船となる修理船 漁船で(独)水産総合研究センターチャーターの海外まき網船「日本丸」弊社のE岸接岸。

ほぼ1ヶ月ぶりに自宅マンションに都市ガスが通り入浴できた。



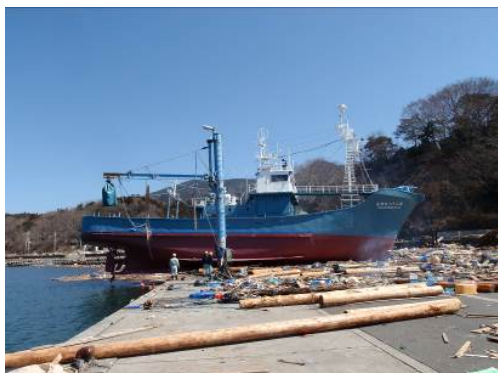
写真説明：漁船で水産センターチャーターの海外まき網船「日本丸」E岸接岸

□4月6日(水) 宮城県漁業実習船「宮城丸」B岸接岸



写真説明：
左) 宮城県実習船「宮城丸」B岸接岸
右) 1号ドック排水

当日、鮎川に行ってきました。キャッチャーボートの展示館は残っていましたが、途中の部落そのものが完全に破壊されて強烈でした。何も残ってなくて家屋・田畑・川・海岸線等がまったく見分けがつかなくなりました。石巻では、港及び津波が逆流した川周辺は悲惨で、特に流れた石油タンク・船舶・自動車による火災の影響は甚大でした。ただ石巻は海拔や川の堤防の決壊箇所によっては津波を受けた場所と津波を逃れた箇所の差は道路を挟んで天国と地獄の差です。津波を受けたところは海底から運ばれたヘドロ&泥で20~40cmは覆われていました。今回は仕事の写真以外は写真を撮るのが好きな私もこの大地震・津波の被災写真は撮らないことにしました。津波で打ち上げられた鮎川の捕鯨船を見た後、石巻でラーメンを食べて帰りました。このラーメンの美味しかったこと。普段、当たり前のことが、一つ一つありがたく感じた震災後の日々でした。



写真説明：石巻港に係留されていて津波で鮎川の給分浜に打ち上げられた捕鯨船(キャッチャーボート)

□4月7日(木) 2号ドック内へドロをジャイアントバッカーにて吸引開始



写真説明:ヘドロで覆われたドック内
吸引能力の強いジャイアントバッカ
ーにて吸引開始

同日 23:32 地震発生深夜に巨大余震(M7.4)が発生し、また、全てのライフラインが再び停まりました。これは、塩釜でやっと、ライフラインが整い、復興に向かっていたところでしたので、いささか参りました。ただ今度は、電気とガスは翌日に、また、水道は週末には復旧しましたが、地震の揺れと方向が違うのか、また、東日本大震災で痛めつけられた地盤や家屋が再度の巨大余震で結構破壊されました。

今回の方が地震は厳しかったようで前回以上に破損したものがありました。また、ショックだったのは当日入浴した風呂の水が地震の振動で揺れた時に、チェーンで引っ張られた栓が抜けて浴槽の水が抜け、生活用水が確保できなかった事です。

□4月8日(金)

塩竈市役所給水所にて給水してもらえたのは清水3ℓのみ、自宅マンション再点灯 19:00

□4月9日(土) 変電所新替盤搬入



写真説明:震災直後に発注した変電所
の配電盤が入荷した。

□4月10日(日) 1号ドックジャイアントバッカーでヘドロ吸入



写真説明:ヘドロで覆われたドック内
吸引能力の強いジャイアントバッカ
ーにて吸引開始

4月11日(月)に東京で入札するために、車で自宅のある横浜に向かいました。横浜は桜が満開で東京都知事選・神奈川県知事選が行われるのを知りました。

□4月11日(月)

入札後、東北道を帰る途中、福島の手前で変な天気(豪雨・雷・あられ)にあった後、安達太良SAで小名浜の大きな余震に会い、塩竈まであと100kmのところまで東北道を下ろされました。(17:15 震度6弱)

□4月15日(金)

新換えしたトランス・受電盤による変電所による弊社構内全所への通電開始。東北電力から弊社の変電所を経由しての通電を開始しました。

□4月21日(木) 押船「千賀丸」修理後復帰



□4月21日(木) 1号ドックへの復旧後第一船の入渠船



写真説明：さんま船「第十八漁栄丸」と近海まき網漁船「第八十三惣寶丸」の入渠風景。「第八十三惣寶丸」は3月11日に1号ドックから流出した漁船

注) 今回、米軍・自衛隊・警察・消防・官公庁その他の機関の公助は強力でした。文章中 _____ は公助に当たる部分です。

弊社の復興に際し、NHKの「プロジェクトX」より以下の言葉を念頭に復興に頑張りました。

「挑戦者に「無理」という言葉はない」

「夢中でしたね。夢中ってというのは大変素晴らしいことだと思う。神様がね、こんな素晴らしい人たちを私の周りに置いて下さった。」

「部下がついてくるかどうかはリーダーが苦しんだ量に比例する。」

「部下の幸せのために上司はいる。社員の幸せのために社長はいる。」

「絆」「がんばろう！日本」「頑張ろう！東北」

「ガンバろう！東北ドック鉄工」

まだまだ東北の復興は道半ばと言わざるを得ないですが、微力ながら頑張りたいと思います。

以上